



自然遊学館 だより



ハマボウ

入り江や河口などに生育するアオイ科の低木。夏季に咲く大きな黄色い花は朝開いて夕方にしぼむ1日花。大阪では絶滅し自生したものは見られないですが、二色の浜海浜緑地では植樹されています。2019年7月26日撮影。

2019 AUTUMN

No.93



2019.11.6 発行 貝塚市立自然遊学館

	目 次	
--	-----	--

***ネイチャーレポート**

クモがおもしろい! 澤田智子... 1

汽水ワンド周辺の陸生生物調査1
..... 岩崎 拓・湯浅幸子... 3

***行事レポート**

二色の浜アマモ場観察 山田浩二... 4

トンボ採集と標本づくり 松田 勲... 6

カニ釣り ～近木川河口～ 山田浩二... 8

自然生態園バッタ調べ 2019 岩崎 拓... 9

秋の自然を楽しもう! in 善兵衛ランド
..... 岩崎 拓・澤田智子... 10

近木川のアユを調べよう! 岩崎 拓... 10

***泉州生きもの情報**

二色の浜で採集されたセトミノウミウシ
..... 山田浩二... 11

阪南市波有手海岸で採集されたエダアシクラゲ
..... 山田浩二... 12

***館長コーナー**

生涯学習として当館が考えるこれからの取り組み
..... 高橋寛幸... 13

***調査速報**

貝塚市二色の浜と近木川周辺の鳥調査14
..... 鈴子勝也... 14

***ホームページ**

自然遊学館 HPー昆虫 3 岩崎 拓... 16

*寄贈標本 18

*スタッフ日誌 22

🌱 ネイチャーリポート

クモが面白い！

小さいころからクモが嫌いでした。大学で昆虫学を専攻し、昆虫の世界に入ってから同じ節足動物なのにクモは嫌いでした。

だけど今年！
いきなりクモの世界にハマりました！！

きっかけは、初夏に千石荘（貝塚市名越）でコガネグモを採集したことでした。大阪府の準絶滅危惧種に指定されているため、殺さずに飼育してみると、その食べる姿がとても面白く、愛情を注ぐようになりました。コガネグモが卵を産んで死んでしまうと、今度は近くでナガコガネグモを採ってきて飼育し始めました。

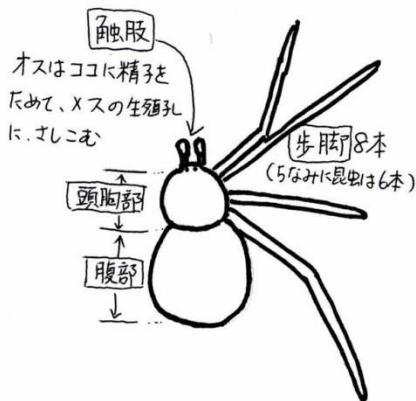


図1. クモのからだ

～クモの糸は面白い～

クモと言えば「クモの網」を連想しますが、網を張るクモは、世界のクモ全種数約4万8,000種のおよそ半分だけです。

網の張り方はクモのグループごとに特徴があり、一般に想像されるクモの円網は

コガネグモ科やアシナガグモ科などのものです（図2）。

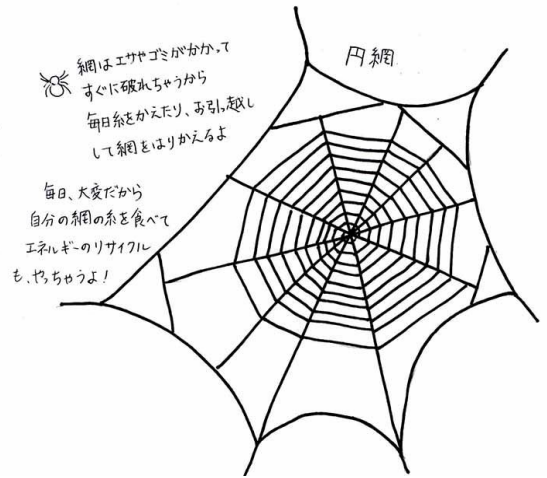


図2. ぐるぐる円網

また、サラグモ科やマシラグモ科などはハンモックのような形をした網を張り（図3）、それぞれの網の形でエサを採る戦略が異なります。

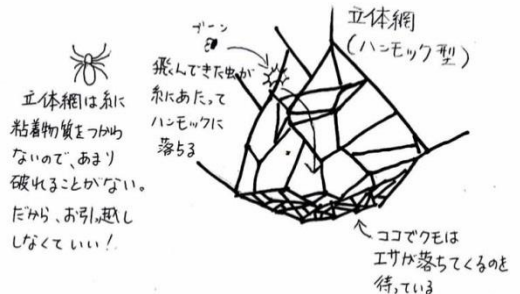


図3. 立体網（ハンモック型）

クモは種にもよりますが、最大7種類の糸を使い分けていることをご存じでしょうか？

たとえば、円網を作るだけでも4種類の糸（物質）を使っています。「網全体の骨組みとなる縦糸と枠糸」「エサを捕獲するための横糸」「横糸に等間隔で配置する粘

り気のある粘糸」「粹糸と木などを付着されるための糸」で、これらはクモの体の中にある別々の腺で作られています。

網を作る以外にも、捕獲したエサをぐるぐる巻きにする糸、産んだ卵のうを包む糸、オスの精液を包む糸などがあります。それぞれの用途に合わせてクモは、ちゃんと使っているのです！

生き物の糸という点でカイコガが作る絹となりが違うのでしょうか？

実はクモの糸とカイコガの絹はほとんど同じなのです。繊維学会などでもクモの糸の可能性についての論文を見つけることができます。

クモの糸は人間には1本の糸にしか見えなくても実は1 μm 以下の非常に細い糸が何本も集まっているため、強度に優れています。また、カイコガの絹糸などの生物資源の多くは紫外線に非常に弱いのですが、昼行性のクモの張る糸には紫外線に当たるとより強度を増すという特徴があり、商業的にもとても魅力のある生物資源なのです。

しかし、クモの糸の商業化を邪魔する要因はクモの共食いです。カイコガのように大量飼育ができないため、クモの糸を大量に産出できないので、現在のところ一般に実用化されていません。

芥川龍之介の小説「クモの糸」をご存じでしょうか？ 地獄に落ちた人が、お釈迦様が天より垂らしたクモの糸に掴まって地獄から抜け出そうとする話です。

クモの糸について研究されている大崎茂芳氏（奈良県立医科大学医学部 名誉教

授）が、テレビ番組の要請で「ヒトはクモの糸にぶら下がるのか」に挑戦されたそうです。番組中では多くの糸を集めて22kgのスイカを持ち上げたところで糸束が切れてしまったそうですが、その後も個人的に挑戦を重ね、19万本の糸の束を長さ13cmにして実験したところ65kgのご本人がぶら下がることに成功したそうです。

当館では毎週月曜日に来館者向けの「エサやり体験」イベントを実施しています。その際はクモのエサを捕まえる瞬間も見てもらっています。

円網を張るクモは、網にバッタなどの虫がひっかかると網の上をすばやく動いて、虫を捕まえ、糸でぐるぐる巻きにします。その瞬間はまばたき禁止の息をのむ早業なのですが、子供たちは飼育ケースにかじりついて観察しています。最初はクモを見るのも嫌がっていた大人でさえ、携帯で動画を撮りつつ、「おお～！」と声を上げています。

今回は糸についてのお話のみ書かせて頂きましたが、他にもおもしろい魅力がたくさんクモにはあります。

また、日本には現在約1,700種近くのクモが知られていますが、あと400種近くは未知なる種がいると言われています。みなさんにも新種発見のチャンスがありますよ！

引用・参考文献

馬場友希（2019）『クモの奇妙な世界』、家の光協会。
馬越 淳・馬越芳子・秦 珠湖（1997）生物

紡糸 - 低エネルギースーパー紡糸 (クモ)
- vol. 53, No. 7: 202-211.

大崎茂芳 (2014) クモの糸の物理化学的特性と応用への動向. 機能紙研究 (52): 27-31.

大崎茂芳 (2015) クモの糸の不思議. 日本家政学会誌 (66) 第 10 号: 521-528.

(澤田 智子)

汽水ワンド周辺の陸生生物調査 1

本誌でたびたび紹介してきたように、自然遊学館では、大阪府からの委託を受けて、2012 年度から、近木川河口につくられた汽水ワンド周辺の生物等に関する経過観察を行ってきました。メインは汽水ワンド内の水の生きものですが、北側にあるソメイヨシノ等の植栽地でも、2013 年 1 月から 2019 年 3 月までのほぼ 6 年間、毎月、動植物に関する調査を行ってきました。今号から 3 回に分けて、その結果を紹介します。

植物

調査開始当初、70 本の植栽木 (ソメイヨシノ 50 本、クヌギ 12 本、コナラ 8 本) と 6 本のセンダンの自然木があり、その他、エノキの藁がありました。生垣として植栽されているものは、クチナシ、ヒラドツツジ、ジンチョウゲ、キンシバイです。

植栽後すぐにソメイヨシノ 1 本が枯れて除去され、2018 年 9 月の台風 21 号通過前までにクヌギ 1 本とコナラ 4 本が枯れていました。枯れた原因は近くのセンダンが大きくなり、日当たりが悪くなったためだと

推測されます。その影響は、地面の草本にも及び、例えば、イノコズチが減り、ツユクサが増えています。



ソメイヨシノ、2016 年 4 月 11 日
(下の黄色い花はセイヨウカラシナ)

話を樹木に戻して、2018 年 9 月の台風では、南寄りの風が強く吹き、地面から抜けたり、倒れたり、幹が折れた木があり、垂直に立って生きている木は、ソメイヨシノ 35 本、クヌギ 9 本、コナラ 5 本、センダン 4 本の計 53 本に減ってしまいました。

草本に関しては、2013 年 1 月の調査開始当初、クズが優占して樹木に寄り掛かるほどでしたが、1 年に 2~4 回の頻度で草刈りが行われたため、クズ群落は縮小しました。現在の優占種は、クズのほか、ヨシ、ヨモギ、コセンダングサ、セイタカアワダチソウ、セイバンモロコシ、ヨウシュヤマゴボウで、その中でも、ヨシとコセンダングサが増加傾向にあります。また、春にはセイヨウカラシナ、冬にはノビルが目立ちます。



コセンダングサ、2013年11月18日
調査時に悩まされた実（“ひっつきむし”）

これまでの調査で137種の植物が確認されましたが、その特徴は外来種が68種（49.6%）ととても多いことです。年ごとの割合も45%～50%の間の数値で推移し、例えばせんごくの杜周辺などでの10～15%程度という値とは大違いです。ただ、特定外来生物のナルトサワギクはこの調査地には侵入していません（汽水ワンドの石積様護岸では確認されています）。

海浜植物としては、ハマヒルガオが2014年から継続して確認されていて、ほかに外来種ですがホコガタアカザも2015年だけ確認されました。



ハマヒルガオ（2017年5月17日）

菌類

一言で言えば、地面から生えるキノコが少なく、弱った木から生えるキノコの方が多いということになります。植物の根部では菌類と共生して菌根が形成されます。菌類は植物から炭水化物をもらい、植物は菌類から養分や水分をもらいます。そういった菌根をつくるハラタケ科のような菌根菌が少なく、衰弱木に寄生するキクラゲやクロコブタケなどの腐朽菌が、成長の悪いクヌギやコナラの植栽木や、添木材に目立つようになってきました。

（注）一般開放される予定の汽水ワンド本体とは違って、ソメイヨシノ等植栽地は、立ち入り禁止になっています。

（岩崎 拓・湯浅 幸子）



行事レポート

二色の浜アマモ場観察

日時：2019年7月14日（日）9：30～12：00

場所：貝塚市二色の浜

参加者：15人（うちスタッフ6人）

二色の浜ではアマモの分布域が年々広がっている感があります。こうした状況の中、波当たりの弱い離岸堤の内側で、アマモ場をシュノーケリングしながらの観察会を行いました。

当日は明け方まで雨模様でしたが、ちょうど観察会の時間帯は雨に降られずに実施できました。日射が少なく、薄暗かったのですが、海水の透明度は良く、アマモのたくさん茂る様子を箱メガネや水中マスクで観察しました。アマモ場を生息場とす

るタツノオトシゴの仲間のサンゴタツ（図1）が貝塚市の海岸では初めて記録されました。また、離岸堤にはホンダワラコケムシが多く付着し、例年に比べ、シロイバラウミウシやシラユキウミウシ（図2）などのウミウシ類が多く見つかりました。



図1. サンゴタツ



図2. シラユキウミウシ

小休憩をはさみ、後半はミニ地曳網を曳きました（図3）。大量に掛かるアナアオサとともにメジナやクロダイの幼魚や、ウミフクロウ（図4）など魚介類を見つけることができ、合せて魚類11種、甲殻類3種、軟体動物2種を記録しました。

今回の観察会で、前半のアマモ場・離岸堤で採集した生きものを表1に、地曳網で採集した生きものを表2に示しました。



図3. 地曳網に掛かった生きものを探す

表1. 二色の浜のアマモ場で観察した海岸動物 2019年7月14日

グループ		和名
軟体動物門	腹足綱	ニシキウズガイ科
		コシダカガンガラ
		チグサガイ
		タマキビガイ科
		モロハタマキビ
		ブドウガイ科
		ブドウガイ
		イロウミウシ科
		シラユキウミウシ
		ネコジタウミウシ科
有櫛動物門	無触手綱	シロイバラウミウシ
		フジタウミウシ科
		クロコソデウミウシ
		メリベウミウシ科
		メリベウミウシ属
		ヨツスジミノウミウシ科
		セトミノウミウシ
		頭足綱
		マダコ科
		マダコ
環形動物門	多毛綱	ウリクラゲ科
		ウリクラゲ
		ウロコムシ科
		ウロコムシ科の一種
		ウズマキゴカイ科
		ウズマキゴカイ科の一種
節足動物門	軟甲綱	テナガエビ科
		アシナガスジエビ
		ユビナガスジエビ
		ホンヤドカリ科
		ユビナガホンヤドカリ
		ケアシホンヤドカリ
		ヤドカリ科
		イザナミツノヤドカリ
		ベンケイガニ科
		ヒメベンケイガニ
外肛動物	裸喉綱	フクロコケムシ科
		ホンダワラコケムシ
棘皮動物	ヒトデ綱	イトマキヒトデ科
		イトマキヒトデ
脊索動物門	硬骨魚綱	ヨウジウオ科
		ヨウジウオ
		サンゴタツ
		フサカサゴ科
		メバル属
		カジカ科
		アサヒアナハゼ
		タイ科
		ヘダイ
		クロダイ
		ハゼ科
		ドロメ
		フグ科
		クサフグ

表2. 二色の浜地曳網（網入れ2回）2019年7月14日

	グループ	和名	個体数
魚類	ボラ目	ボラ科	ボラ
			1
	カサゴ目	フサカサゴ科	メバル属
			3
		カジカ科	サラサカジカ
			1
	スズキ目	タイ科	クロダイ
			9
			ヘダイ
			6
		ウミタナゴ科	ウミタナゴ属
			6
甲殻類	十脚目	メジナ科	メジナ
			48
		ハゼ科	ドロメ
			1
			ヒメハゼ
			1
	フグ目	フグ科	ヒガンフグ
			4
			クサフグ
			3
軟体動物	腹足綱	テッポウエビ科	テッポウエビ
			1
		ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ
			5
		モクズガニ科	スネナガイソガニ
			1
軟体動物	腹足綱	メリベウミウシ科	メリベウミウシ属
			17
軟体動物	腹足綱	ウミフクロウ科	ウミフクロウ
			1


図4. ウミフクロウ

(山田 浩二)

トンボ採集と標本づくり

日時：2019年8月10日（土）10:00～15:00

場所：貝塚市せんごくの杜周辺

自然遊学館多目的室

講師：梅崎裕久、松田 勲、中野東男

参加：7家族18名（大人7人、子ども11人）、自然遊学館スタッフ4人、学芸員実習生2人

協力：自然遊学館わくわくクラブ

トンボの採集と標本づくりの実習行事は、関西トンボ談話会が2012年から毎年大阪府下の博物館施設等と共催で行っており、今回で8回を数え、貝塚市立自然遊学館は2013年以来2回目の開催となります（自然遊学館だより2013 AUTUMN No. 69 2013. 11. 8）。今回の案内は、「広報かいづか 令和元年7月 第956号」に掲載されました。

1. トンボの採集

貝塚市名越・橋本、せんごくの杜周辺
(10:00～11:00)

10時に“は～もに～ばず”「こすもすの里」バス停（ロータリー）集合、木陰に移動し、最初に関西トンボ談話会の講師2名を、続いて中野さんを紹介しました。中野さんは貝塚市在住で和泉葛城山、地元を中心とした昆虫を調査しています。

10時10分、貝塚市立自然遊学館のスタッフの案内でトンボの観察・採集を行いました。


トンボ採集

採集コースは、せんごくの杜から反時計周りに大井谷池前水田を大きく回り、ボタン池の西側を通り山道から出発点戻るコ

ースをとりましたが、この日の大阪の最高気温は 37.2℃と暑い一日で早々に採集を切り上げた結果になりました。

採集：アオイトトンボ 1♂、ギンヤンマ 1♂、シオカラトンボ 17♂10♀、オオシオカラトンボ 1♂2♀、ウスバキトンボ 2♂5♀

目撃：ウチワヤンマ 1♂、タイワンウチワヤンマ 1♂、コシアキトンボ♂♀数頭



トンボ採集後の集合写真

2. トンボ標本づくり

自然遊学館多目的室（13:00～15:00）

講師：梅崎裕久（関西トンボ談話会）

梅崎さんは先ずテキストと標本作成用具を配布しました。トンボ標本作成用具として市販されているものがないので、梅崎さんは独自のアイデアにより 100 円ショップで調達したものをそのまま又は改造して使用するようにしています。

標本づくりの順序

- ①トンボの処理（酢酸エチル蒸気/ポリ袋）
- ②トンボの腹部内臓の除去と芯材通し
- ③トンボの整形・固定（横向き及び展翅、マチ針）
- ④トンボ標本の乾燥（1～2 週間）

- ⑤トンボ標本の仕上げ（昆虫針、ラベル）
ラベル（いつ、どこで、だれが）の作成
- ⑥トンボ標本の保管（標本箱、乾燥剤）



トンボの標本づくり

①午前中に各人が採集したトンボは、梅崎さんがまとめて処理しました。

②トンボは肉食昆虫なので、美しい標本に仕上げるには腐敗しやすい内臓の除去が必要です。子どもは、講師に教えられた通りトンボの腹部を切開し真剣にピンセットで内臓を取り出し腹部に芯材を通しました。

③翅を合わせた横向き標本（トンボでは一般的）と展翅標本づくりをしました。

展翅板の上に内臓を除去したトンボを置き、テキスト解説通りマチ針と展翅テープでトンボを固定しました。

展翅板のトンボと乾燥剤をタッパーウェアに入れ乾燥させます。

④～⑥ここからは家に持ち帰っての作業となります。

捕まえたトンボを標本にすることに抵抗はないか心配しましたが、過去 7 回の行事と同様に子どもたちは講師の説明通り、親やスタッフの手助けもあり、真剣且つ大胆に作業をしたのが印象的でした。



標本づくり後の集合写真

最後に「トンボは貴重な命を私たちに提供してくれたので、標本はデータラベルをきっちりと付け防虫剤を入れ夏休みの思い出として大切に保管して下さい。」と参加者にお渡しし集合写真を撮り解散しました。

(関西トンボ談話会 松田 勲)

カニ釣り ～近木川河口～

日時：2019年9月14日(土) 10:00～12:00

場所：近木川河口

参加者：55人(うちスタッフ7人)

例年カニ釣りをしている近木川左岸のヨシ原一帯は、一昨年(2017年10月)の台風時の大水で土砂が厚く堆積し、カニたちの生息地の環境が激変しました。ベンケイガニ類やアシハラガニなどの激減の他、左岸干潟で1995年以降まとまった数が安定していたハクセンシオマネキもほとんど姿が見られなくなりました。

その後2年が経ち、ある程度カニたちも戻ってきた状況の中でのカニ釣りでした。

カニの巣穴が見えるところを探し、タコ糸の先にタクアンを付けた餌を落としますが、なかなかカニは出てきてくれませんが、毎年のようにカニ釣りに参加している常連ファミリーさんも「カニが少ないわー」とため息混じりでした(図1)。

50分間のカニ釣りの結果を集計すると、ハマガニ26個体、クロベンケイガニ10個体、アシハラガニ2個体、アカテガニ1個体の計39個体でした。例年、3桁を割ることはありませんでしたので、このカニ釣り結果からも、カニの生息数が以前の水準まで戻っていないことが裏付けられました。こうした状況でしたので、参加されたご家族の中には残念ながら全く釣れなかったところも続出してしまいました。



図1. 近木川河口でのカニ釣り

釣れたカニは甲羅の幅(甲幅)をスタッフで計測し、記録に残しました。各種で大物の記録を表1に記します。計測の間、参加者の方々は近木川右岸側の干潟再生地(汽水ワンド)へ移動し、そこに生息するハクセンシオマネキやヤマトオサガニなどのカニたちの姿を観察しました。

表1. カニ釣り大物ベスト3 近木川河口2019年9月14日

クロベンケイガニ		
合計 10個体 (平均甲幅17.7mm)		
	甲幅(mm)	採集者
♂1位	30.9	ふじわら ゆうき
2位	22.8	じゅうり りょうすけ
3位	21.0	ふじわら たかふみ
♀1位	23.9	みやづ ほのか
2位	22.5	しらが ゆめ
3位	17.0	しらが ゆめ

ハマガニ		
合計 26個体 (平均甲幅33.0mm)		
	甲幅(mm)	採集者
♂1位	48.2	すぎもと なおはる
2位	44.8	ふじわら ゆうき
3位	44.0	みやづ ゆいか
♀1位	40.1	しらが ゆめ
2位	37.2	しらが ゆめ
3位	35.4	ふじわら たかふみ

アシハラガニ		
合計 2個体 (平均甲幅22.7mm)		
	甲幅(mm)	採集者
♀1位	22.8	さとう げんき
2位	22.6	みそばた ひなこ

アカテガニ		
合計 1個体		
	甲幅(mm)	採集者
♀1位	29.1	ふじわら ゆうき

(山田 浩二)

自然生態園バッタ調べ 2019

日時：9月14日(土) 11:00～12:00

場所：自然生態園「バッタの原っぱ」

参加者：19人(うちスタッフ4人)

2006年以降13回目のバッタ調べです(去年は雨で中止)。19人で20分間採集し、10種34個体のバッタ目昆虫を採集しました(図1、表1)。エンマコオロギが最多の12個体、一番久しぶりの確認は

2012年以来のツチイナゴでした。それに対して、ツユムシ科は2013年以来、確認されていません。



図1. バッタの原っぱ

表1. 自然生態園「バッタの原っぱ」のバッタ調べ

2019年9月14日 11:00～12:00 19人

同定: 岩崎 拓・柳原浩良

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	クビキリギス		4
	ホシササキリ	4	
コオロギ科	エンマコオロギ	12	
	ハラオカメコオロギ	1	
オンブバッタ科	オンブバッタ	1	
	アカハネオンブバッタ	1	
	オンブバッタ属		5
バッタ科	ツチイナゴ		1
	ショウリョウバッタ	2	
	クルマバッタモドキ	2	
	マダラバッタ	1	

ほか、オオカマキリ(1♂)、チョウセンカマキリ(2♂)を採集

10種という種数はこれまでの平均的な値ですが、34個体は3番目に低い値でした。今年は最低の個体数だった2017年のような日照り続きによる草枯れはありませんでした。今年の春からの観察事項から、トンボの池にいるトノサマガエルによる遠

征&捕食、ムクドリによる集団捕食などがバッタ目を減少させた原因だと推測されました。

(岩崎 拓)

秋の自然を楽しもう！

in 善兵衛ランド

2019年9月21日(土) 18:00～20:00

貝塚市立善兵衛ランド(貝塚市三ツ松)

参加者：27人(うちスタッフ5人)

秋恒例となった善兵衛ランドとの共催行事「虫と星の観察会」の開催場所は、今回は善兵衛ランドの番でした。まずは鳴く虫の実物を見てもらい、鳴く虫の説明スライドには、少しくイズ形式の動画を加えてみました。

続いて、善兵衛ランドの望遠鏡で木星と土星を見て(図1)、2階ベランダから夏の大三角形を見ながら森哲裕館長の解説を聞き、再び望遠鏡で、夏の大三角形の1つ、ベガも見せてもらいました。



図1. 望遠鏡で星を観察

最後に駐車場に出ると、アオマツムシばかりの鳴き声の中に、少しマツムシとエン

マコオロギの鳴き声が聞こえました。あらかじめセットしていたライトトラップに集まった虫の解説は、澤田義弘さんをお願いしました。

少し時間が余ったので、鳴く虫の採集を始めると、意外に多くの数の鳴く虫が地面をはねていることが分かりました。マツムシの鳴き声はすれども姿を見つけるのは困難です。そんな中、マツムシをゲットできた参加者もいました。

<確認された鳴く虫>

アオマツムシ、マツムシ、エンマコオロギ(以上、鳴き声と採集)、ツツレサセコオロギ、マダラスズ(以上、ライトトラップ)、ハラオカメコオロギ、オナガササキリ(以上、採集)

<鳴く虫以外：ライトトラップ>

シロオビアワフキ、オオホシカメムシ、サビキコリ、クロヤマアリ、など

(岩崎 拓・澤田智子)

近木川のアユを調べよう！

日時：2019年9月24日(土) 10:00～12:00

場所：近木川下流(新井井堰下)

参加者：30人(うちスタッフ6人)

今年はボランティア調査で春先にしかアユが見つからず、館スタッフが行事前に少し見かけただけでした。当日の現場で、講師の河野通浩さんも「朝、男里川では見られず、ここでも難しいかも」という見立てでした。

少し不安がありながらも、河野さんの素

早い刺し網の実演からスタートです。ボラばかり掛かっているのかと思われた時、大きなアユが掛かっているのが見つかり、結局、3匹の収穫となりました（図1）。そこからは参加者各自が1時間、たも網で採集し、合計15種の魚を採集できました。



図1. 採集されたアユ
（もう1匹は解説前に死んでしまいました）

河野さんにアユをはじめ、採集された魚類の説明をしていただき、大阪府立大学で魚類の研究をされている森彩華さんには、専門のメダカなどの解説をしていただきました（図2）。

採集時に死んでしまった1匹のアユは持ち帰り、その日の昼食で焼魚にして食しました。身をほぐすと内臓に深緑色の藻が入っているのがはっきりと分かり、現場で嗅いだ少しくさい匂いがしました。



図2. 採集された魚類の説明

<魚類 15種； 同定：河野通浩・森彩華>

アユ（3匹）、ウナギ、オイカワ、カワムツ、ブルーギル、ドンコ、カワアナゴ、ミナミメダカ、ボラ、マハゼ、ゴクラクハゼ、ミミズハゼ属、ギンガメアジ、シマイサキ、クサフグ

<甲殻類 5種>

クロベンケイガニ、モクズガニ、テナガエビ、ヒラテテナガエビ、ミゾレヌマエビ（他にも小さなエビが多数採集されました）

<爬虫類 1種>

ミシシippアカミミガメ

<水生昆虫 1種>

アメンボ

（岩崎 拓）

泉州生きもの情報

二色の浜で採集された セトミノウミウシ

本年7月14日に二色の浜で行ったアマモ場観察会については、本号の行事レポートに記していますが、このとき見つかったセトウミウシ（図1）は貝塚市の海岸では初記録された種ですので、ここで紹介します。

本種が見つかったのはアマモ場に隣接する離岸堤周辺で、離岸堤のコンクリート面やそこに付着するホンダワラコケムシ群体、アナアオサなどの上を這っている複数個体のセトミノウミウシを確認しました。本種は頭部に触角と口触手が1対ずつあり、背面には多数の背側突起があるミノウミウシの仲間で、ヨツスジミノウミウシ科に属します。体長は2cmほどで、黄橙色

をした体色の地に青紫色の模様が入り、突起の先端は黄色といった艶やかな色彩をしています。これほど目立つウミウシがこれまで二色の浜で見つかっていなかったにもかかわらず、今回、多数見つかったことから、最近になって何らかの要因で住み着いたと考えられます。



図 1. セトミノウミウシ

本種についての生息状況をお知らせくださった河添純子さん、柏尾翔さんにお礼申し上げます。

(山田 浩二)

阪南市波有手海岸で採集された エダアシクラゲ

2019 年 5 月 17 日、阪南市の波有手海岸で大阪湾生き物一斉調査が行われましたが、その際にエダアシクラゲ(図 1)という大きさ 5mm ほどのかわいいクラゲが採集されましたので紹介します。この場所では毎年同じ時期に調査に入って 5 年目になるのですが、初めて捕れたクラゲの種類になります。

一般にクラゲという名を知らない人は

いないと思いますが、刺胞器官を備えた毒を持つクラゲは大きく鉢虫綱、箱虫綱、ヒドロ虫綱の 3 つに分けられます。大阪の海でよく見られるミズクラゲやアカクラゲ、1m を超すエチゼンクラゲなどは鉢虫綱になります。また、お盆すぎに海水浴をするとうよく刺されるアンドンクラゲや、沖縄の海で危険なハブクラゲは傘の形が立方体なので箱虫綱とよばれます。そして、今回紹介のエダアシクラゲのように小さなものから、発光クラゲのオワンクラゲ、猛毒のカツオノエボシまで多種多様なヒドロ虫綱です。

エダアシクラゲは春から初夏にかけて見られる種類で、海藻の茂みにすんでいます。和名は触手が枝分かれていることに由来し、それぞれの触手には吸盤があり、これで海藻に付着しています。体は繊細で透明なガラス細工のようで、目を奪われるような美しさを持っています。



図 1. エダアシクラゲ

なお、本調査は NPO 法人環境教育技術振興会とプロロジスが担当して行われました。

(山田 浩二)

館長コーナー

生涯学習として当館が考えるこれからの取り組み

「海の学び」について

「海の学び」は、「海洋教育」＝「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進する教育」の一環となる事業ととらえ、『海に親しみ、海を知る』事業を経て『海を守り・海を利用する学習』を実践し、海の利活用についてまとめていくものです。

大阪湾では、過去の高度成長期に、産業発展のために海の埋め立てを盛んに行いました。そして、産業を発展させました。この結果、地盤沈下、空気汚染、騒音問題、海水汚染など多くの問題が起きました。この時を境に、海の環境が大きく変わり、今も負の影響（※注）を受けています。

※注：多くの埋立地の影響で海の地形が変わり、海流が回遊しなくなったことで湾内の塩分や栄養分の均等化ができなくなりました。その結果、赤潮・青潮等のプランクトンの異常発生や魚の窒息死等が起こるようになりました。さらに、自然海岸が激減し、人工のコンクリート護岸に変わったことで、エビ・カニなどの生きものや魚が大きく育つ場所がなくなりました。その他、海の環境に関するいろいろな障害ができました。

今回の「海の学び」活動では、今の海を高度成長期前の生きものが豊富に生息した海にするには、何をしたら良いかを考えます。私たちには既存の埋め立て地やコンクリート護岸を無くし、湾内の地形を元に戻すことは困難です。しかし、海水の中のプランクトンや他の海の生きものを調査

することはできます。このほかにも毎日の海辺の散歩で、浜辺の漂着ゴミ調べもできます。このような身近な海調べから海洋教育に迫ります。

『海を守り・海を利用する学習』を行います。

海を守る観点から大阪湾でのゴミ問題とその対策や漂着ごみについて調べ、海を利用する観点から栽培漁業について調べていきます。そして、活動の最後に、海を守り・育てるために自分たちに出来る事をまとめます。



2018年7月15日、二色の浜アマモ場観察

『生きものだいすきグループ』を募集します。

海の生きもの観察に興味を持ち実際に生きもの観察・調査し研究したいと思っていらっしゃる方々を環境教育グループ『生きものだいすきグループ』（仮称）と題して募集します。この方たちは体験活動を重視して活動します。昔の海を懐かしむ方から、海の生きものに興味を持つ親子を想定しています。また、この『生きものだいすきグループ』（仮称）は、観察・調査活動を重ねる中で、将来、生涯学習にすすみ、今後の

海洋教育推進のメンバーになり、今後の海洋教育事業に発展していくことを目標としています。

初めに起こす事業名（例）

『ゴミを減らして海を守り・生きものを育てて豊かな海をつくる海洋教育の実践』

このほかに当館が募集する観察活動として前号で紹介したアユ調査の他の幾つかの観察会があります。これらは行事とは別に行われる希望者による観察会活動です。これらの観察会も『生涯学習』の一環として行うことはできないだろうか？と考えています。

そこで、最後に前号で紹介した観察会の内容に少し補足説明を付けて、もう一度紹介させていただきます。まず、ボランティアによる海につながる川の調査

活動内容

・4月～5月と9月～10月

近木川のアユ調査（近木川下流域）



2019年5月4日、近木川で確認されたアユ

・6月～7月

ホタルの寝床調査（蕎原地区）

・8月

アマモ場の調査（二色の浜）

・11月～3月

プランクトン調査と漂着物調査（近木川河口と二色の浜）

活動日・時間

毎月第1第3土曜日 10時から12時

※真冬の時期は調査を控えます。

次に貝塚市内の観察会

活動内容と活動時間

○千石荘の昆虫調査

毎月第2金曜日 10時から12時

○二色の浜漂着物調べ

11月～3月 毎月第1土曜日

10時から11時半

この他に、自然遊学館自然生態園（トンボの池やバッタの原っぱ）での観察会と維持管理作業も広く参加者を募集して行っています。活動日と時間は毎月第2土曜日 10時から12時です（1月と8月は休み）。

調査はすべて自由参加ですが、事前の申し込みをしていただいています。

活動人数は数名からで構いません。地域や町内で観察会をしながら生きもののことを知り、生きものへの理解を深めてみませんか？

問合せ先 072-431-8457 自然遊学館

（高橋 寛幸）

調査速報

貝塚市二色の浜と

近木川周辺の鳥調査 14

1 年前に近木川河口の地形の変化が起こり、観察している鳥にも変化が起きているようです。7 月中旬頃から数が一気に増えました。ウミネコは去年の多いときで約 20 羽だったのですが、今年は 100 羽以上増えました。近木川河口がウミネコにとって、住みやすいところになったのかもしれない。

二色の浜公園周辺において2019年7月～9月に観察された鳥類						
目	科	種	7月 24日	8月 21日	9月 25日	
ハト目	ハト科	キジバト		○	○	
		ドバト	○	○	○	
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○	
ペリカン目	サギ科	ササゴイ	○			
		アオサギ	○	○	○	
		ダイサギ	○	○	○	
		コサギ	○	○	○	
		ダイゼン		○		
チドリ目	チドリ科	コチドリ	○			
		シロチドリ		○	○	
		メダイチドリ			○	
	シギ科	オオソリハシギ			○	
		キアシシギ	○	○	○	
		ソリハシギ			○	
		イソシギ			○	
	カモメ科	ウミネコ	○	○	○	
	タカ目	タカ科	トビ			○
	スズメ目	カラス科	ハシボソガラス	○	○	○
ヒバリ科		ヒバリ		○	○	
ツバメ科		ツバメ	○			
ヒヨドリ科		ヒヨドリ	○	○	○	
ムクドリ科		ムクドリ	○	○	○	
ヒタキ科		インヒヨドリ	○	○	○	
スズメ科		スズメ	○	○	○	
セキレイ科		ハクセキレイ		○	○	
アトリ科		カワラヒワ		○	○	
		種数	15	18	22	



ササゴイ
(二色の浜公園、2019 年 7 月 24 日)

近木川河口周辺において2019年7月～9月に観察された鳥類					
目	科	種	7月 10日	8月 7日	9月 4日
カモ目	カモ科	カルガモ	○	○	○
ハト目	ハト科	キジハト	○	○	○
		ドバト	○	○	○
カツオドリ目	ウ科	カワウ	○	○	○
ペリカン目	サギ科	ササゴイ	○		
		アオサギ	○	○	○
		ダイサギ	○	○	○
		コサギ	○	○	○
		オオバン	○		
チドリ目	チドリ科	ケリ		○	○
		コチドリ	○		
		シロチドリ			○
		シギ科			
	シギ科	キアシシギ	○	○	○
		ソリハシギ		○	○
		イソシギ	○	○	○
		キョウジョシギ			○
	カモメ科	ウミネコ	○	○	○
		タカ目			○
スズメ目	タカ科	トビ	○		○
		カラス科	○	○	○
	ツバメ科	ハシボソガラス	○	○	○
		ツバメ	○	○	○
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	○	○	○
		ムクドリ科	○	○	○
	ヒタキ科	イソヒヨドリ	○	○	○
		スズメ科	○	○	○
	セキレイ科	ハクセキレイ	○	○	○
		セグロセキレイ	○	○	
アトリ科	アトリ科	カワラヒワ	○	○	○
		種数	23	21	23



ウミネコ
(近木川河口、2019 年 9 月 4 日)

(鈴子 勝也)

ホームページ

自然遊学館 HP—昆虫 3

自然遊学館 HP の貝塚市の昆虫ページ作成のために、前々号ではカマキリ目、前号ではカゲロウ目とカワゲラ目をまとめました。各目の進化という点から言えば、順序がバラバラなのですが、今回はカメムシ目を取り上げます。2008 年に本誌 48 号でヨコバイ亜目、49 号でカメムシ亜目を紹介してから 10 年以上が経ってしまいました。

カメムシ目の一番の特徴は、口器が吸うためにストロー状の口吻になっている点です。その中で、前翅と後翅ともに革質化していないのがヨコバイ亜目（同翅亜目）、前翅のみ革質化しているのがカメムシ亜目（異翅亜目）です。カメムシと聞けば、植物の汁液を吸うというイメージがあります。確かに、セミやウンカ、アブラムシなどを含むヨコバイ亜目はすべて植食者ですが、カメムシ亜目の中には、アメンボやミズカマキリ、サシガメのように、他の小動物の体液を吸うものもいます。

ヨコバイ亜目 23 科 167 種

2008 年の 19 科 112 種から増えた 4 科は、トガリキジラミ科、コナジラミ科、ハカマカイガラムシ科、ワタフキカイガラムシ科という地味な仲間です。種数が多い科では、ヨコバイ科が 47 種から 53 種へ、アブラムシ科が 16 種から 41 種へ増えました。その他、アワフキムシ科 12 種、セミ科 9 種、キジラミ科 8 種と続きます。

大阪府レッドリスト種としては、絶滅危惧Ⅱ類のテングオオヨコバイ、準絶滅危惧

のハルゼミとエゾゼミの合計 3 種が含まれます。いずれも和泉葛城山で確認されているものです。エゾゼミとハルゼミは山頂付近で安定的に個体群が存続していますが、テングオオヨコバイは、春日橋付近から山頂まで散発的に少数個体が確認され、2014 年が最後の確認年になっています（図 1）。



図 1. テングオオヨコバイ
(和泉葛城山、2014 年 7 月 1 日)
本誌 75 号より再掲

カメムシ亜目 33 科 226 種

2008 年の 31 科 144 種から増えた科は、ヒラタカメムシ科とエビイロカメムシ科です。当時のことを思い出すと、エビイロカメムシはススキ上などにいる普通種で、「これ位は標本があるだろう」と、見つけても採集していませんでした。

種数が多い科では、カスミカメムシ科が 34 種から 44 種へ、カメムシ科が 30 種から 34 種へ、ナガカメムシ科が 22 種から 27 種へ増えましたが、どれも増加の程度は同じ位です。例えばカメムシ科で言えば、2009 年から和泉葛城山の山頂付近で定期的に昆虫調査を行うようになって、ツノアオカメムシやツマジロカメムシが確認されました。その他、サシガメ科 15 種、ヘリカメムシ科 11 種、グンバイムシ科とツノカ

メムシ科が 10 種で続きます。

大阪府レッドリスト種としては、いずれも準絶滅危惧のムモンミズカメムシ、ヤスマツアメンボ（図 2）、コオイムシ、ヒメミズカマキリ、ミズカマキリ、オオミズムシの 6 種が含まれます。これらは水中や水面で生活する種で、貝塚市内での水辺環境の悪化を反映したものとなっています。この中では、ムモンミズカメムシ、コオイムシ、オオミズムシが 10 年以上確認されていません。



図 2. ヤスマツアメンボ
(和泉葛城山、2016 年 5 月 19 日)
本誌 82 号より再掲

本誌でこれまでに取り上げてきた 3 種について現状を報告します。まず、オオキンカメムシに関しては、2005 年の千石荘での死体確認が最後になっています。2004 年に高野晴一郎さんによって採集されたキマダラカメムシは大阪府初記録で、その後、2011 年まで記録がありませんでしたが、この 2、3 年ほどで確認例が大幅に増えてきました。また、2015 年に自然遊学館に持ち込まれたのが国内初記録となった外来種のクスベニヒラタカスミカメのクスノキへの被害は減少する気配はありませんが、クスノキの枯死は確認されていません。

カメムシ目全体の種数に関して、2003 年発行の創館 10 周年記念号では 35 科 144 種、2008 年の本誌では 50 科 295 種、今回が 56 科 392 種と増えてきました。最近、新記録種が年に 5 種ほどまでと増加のスピードが鈍ってきた感がありますが、小型種や侵入種のことを考えると、道半ばと考える方が正解だろうと思います。

同定者・標本整理協力者

大築正弘、澤田義弘、竹本卓哉、中谷憲一、向井康夫、森 康貴、森本静子、宮武頼夫、山田量崇、山田浩二の各氏（五十音順）

参考文献・引用文献

- 岩崎 拓 (2004) 高野晴一郎君が採集したキマダラカメムシ. 自然遊学館だより No. 32 : 9.
 岩崎 拓 (2008) 貝塚市のカメムシ目 1. ヨコバイ亜目. 自然遊学館だより No. 48 : 6-8.
 岩崎 拓 (2008) 貝塚市のカメムシ目 2. カメムシ亜目. 自然遊学館だより No. 49 : 9-10.
 大阪府 (2014) 「大阪府レッドデータブック 2014」, 48pp.
 白木江都子 (1996) 貝塚のオオキンカメムシ. 自然遊学館だより No. 10 : 10.
 白木江都子・岩崎 拓 (2017) クスベニヒラタカスミカメ. 自然遊学館だより No. 82 : 1-2.
 竹本卓哉 (1997) オオキンカメムシの食樹をめぐるアブラギリ、貝塚に残る. 自然遊学館だより No. 13 : 2-3.
 中谷憲一 (2003) 貝塚市のアメンボ科とカタビロアメンボ科の分布. 「貝塚の自然 - 貝塚市立自然遊学館創館 10 周年記念号 -」, 58-63.
 松谷 賢 (1995) むしむしだより オオキンカメムシ. 自然遊学館だより No. 7 : 5
 山田量崇・向井康夫 (2003) 貝塚市のカメムシ. 「貝塚の自然 - 貝塚市立自然遊学館創館 10 周年記念号 -」, 46-57.

(岩崎 拓)

寄贈標本

<海藻>

- ◆福嶋昭治さんより
ミル 押し葉標本 1 点
貝塚市近木川河口 2019 年 7 月 4 日採集

<植物>

- ◆常道武士さんより
マメアサガオ 菌えい付き
貝塚市澤 2019 年 9 月 28 日採集

<魚類>

- ◆寺田拓真・寺田智代子さんより
ナベカ 生体 1 点
オヤビッチャ 生体 1 点
コショウダイ幼魚 生体 1 点
カマス属幼魚 生体 1 点
テンジクダツ幼魚 生体 2 点
コロダイ幼魚 生体 2 点
イシダイ 生体 5 点
貝塚市二色の浜 2019 年 8 月 3 日採集



テンジクダツ幼魚 (全長 9 cm)

<軟体動物>

- ◆田村涼香さんより
スクミリンゴガイ 生体 1 点
貝塚市水間 2019 年 7 月 14 日採集

<環形動物>

- ◆川口博さんより

ウミケムシ 打上げ死体 2 点
貝塚市二色の浜 2019 年 7 月 10 日採集
ウミケムシ 打上げ生体 5 点
貝塚市二色の浜 2019 年 8 月 9 日採集

- ◆山谷朱穂さんより
ウミケムシ 生体 1 点
貝塚市二色の浜 2019 年 8 月 17 日採集
- ◆山口隼平さんより
シーボルトミミズ 生体 1 点
貝塚市蕎原 2019 年 8 月 17 日採集

<節足動物>

- ◆田村涼香さんより
アメリカザリガニ 生体 1 点
貝塚市水間 2019 年 7 月 14 日採集
- ◆河添純子さんより
ヌマエビ 生体 3 点
ヤマトヌマエビ 生体 1 点
阪南市山中溪 2019 年 8 月 9 日
(泉鳥取高校生徒採集)
- ◆山谷朱穂さんより
クロベンケイガニ 生体 2 点
貝塚市二色の浜 2019 年 8 月 17 日採集
- ◆常道武士さんより
ハウネンエビ 生体 2 点
貝塚市澤 2019 年 9 月 9 日採集

<昆虫>

- ◆五藤武史さんより
ジュウサンホシテントウ 成虫 1 点
堺市西区浜寺公園町
2019 年 6 月 21 日採集
センチコガネ 成虫 1 点
貝塚市馬場 2019 年 6 月 25 日採集
ナガサキアゲハ 成虫 1 点

高石市高師浜 2019年6月30日採集
ヨツスジトラカミキリ 成虫1点

堺市西区浜寺公園町

2019年7月7日採集

コシアキトンボ 成虫1点

高石市高師浜 2019年8月4日採集

◆山口隼平さんより

クビアカツヤカミキリ 成虫2点

羽曳野市尺度 2019年6月28日採集

ムネアカオクロテントウ 成虫1点

貝塚市千石荘 2019年8月9日採集

エダナナフシ 成虫1点

貝塚市蕎原 2019年8月17日採集

ムネアカオクロテントウ

生体2点(成虫1点+蛹1点)

貝塚市橋本 2019年9月21日採集

◆常道武士さんより

ウスバキトンボ 成虫1点

岸和田市野田町 2019年7月4日採集

シオヤアブ 成虫1点

泉佐野市りんくうタウン

2019年7月21日採集

アブラゼミ 成虫1点

貝塚市澤 2019年8月3日採集

キマダラカメムシ 成虫1点

セスジスズメ 幼虫1点

貝塚市澤 2019年9月28日採集

◆小川圭子さんより

クビアカツヤカミキリ 成虫1点

羽曳野市羽曳が丘

2019年7月18日採集

◆川口博さんより

シモフリスズメ 成虫1点

貝塚市二色 2019年7月20日採集

<クモ>

◆食野俊男さんより

ヤガタアリグモ 成体1点

貝塚市北町 2019年8月20日

(食野聡志さん採集)

<寄贈写真>

◆秋武仁志さんより

ホンサナエ 1枚

貝塚市千石荘 2018年6月16日撮影

オグマサナエ 1枚

貝塚市馬場 2019年5月16日撮影

ヤマサナエ 2枚

貝塚市馬場 2019年5月19日撮影

ミスジチョウ 1枚

貝塚市蕎原 2019年5月26日撮影

サラサヤンマ 1枚

貝塚市千石荘 2019年5月29日撮影

ダビドサナエ 2枚

ヒメサナエ 3枚

貝塚市蕎原 2019年6月16日撮影

ミルンヤンマ 4枚

貝塚市蕎原 2019年8月13日撮影

◆覚野良子さんより

カナクギノキ 1枚

和泉葛城山 2019年5月2日撮影

カナクギノキ 1枚

和泉葛城山 2019年5月18日撮影

カナクギノキ 2枚

和泉葛城山 2019年5月23日撮影

ヤマクルマバナ 1枚

和泉葛城山 2019年6月23日撮影



ヤマクルマバナ

和泉葛城山 2019年6月23日 覚野良子さん撮影

コアジサシ 1枚

貝塚市小瀬 2019年7月7日撮影

ホウライカズラ 1枚

ツカモトハコベ 2枚

アカショウマ 1枚

コバンノキ 1枚 ほか6枚

和泉葛城山 2019年7月11日撮影



ツカモトハコベ

和泉葛城山 2019年7月11日 覚野良子さん撮影

コアジサシ 3枚

貝塚市小瀬 2019年7月12日撮影

ヤマトウバナ 1枚

ミヤマナミキ 2枚

ギンリョウソウ 2枚

マルミノヤマゴボウ 2枚 ほか5枚

和泉葛城山 2019年7月13日撮影

ミヤマタニソバ 1枚

ツルマサキ 1枚

トチバンジン 3枚

イチヤクソウ 1枚

スノキ 1枚

イナモリソウ 1枚

ヤマホロシ 2枚

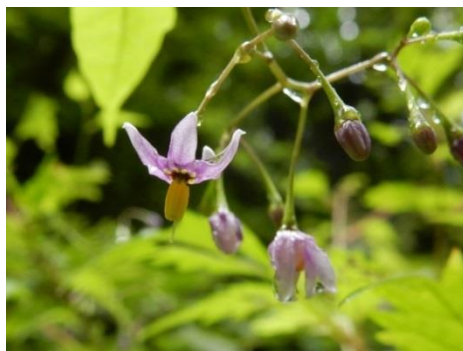
ヤマジオウ 1枚

ウメガサソウ 2枚

オオトラフハナムグリ 1枚

ほか21枚

和泉葛城山 2019年7月15日撮影



ヤマホロシ

和泉葛城山 2019年7月15日 覚野良子さん撮影

コ克蘭 1枚

ホドイモ 1枚 ほか2枚

岸和田市塔原 2019年7月20日撮影

ケリ 1枚

貝塚市久保 2019年7月20日撮影

センブリ 1枚

オオバノトンボソウ 4枚

サワオトギリ 3枚

ヤマニガナ 3枚

ツチアケビ 2枚

カキノハグサ 1枚

アオバセセリ 1枚 ほか5枚

和泉葛城山 2019年7月21日撮影



ヤマニガナ

和泉葛城山 2019年7月21日 覚野良子さん撮影

ナツノタムラソウ 2枚
イラクサ 1枚
和泉葛城山 2019年7月28日撮影
カラスザンショウ 2枚
ハウライカズラ 3枚 ほか10枚
和泉葛城山 2019年8月4日撮影
コヤブタバコ 3枚
ミヤマナミキ 2枚
ヤマクルマバナ 1枚
オオコノハズク羽根 1枚
マムシ 1枚 ほか9枚
和泉葛城山 2019年8月12日撮影
ヤマトキホコリ 1枚
ウワバミソウ 1枚
和泉葛城山 2019年8月24日撮影



ヤマトキホコリ

和泉葛城山 2019年8月24日 覚野良子さん撮影

オオヒキヨモギ 2枚
阪南市 2019年9月1日撮影
イヌトウバナ 2枚
和泉葛城山 2019年9月7日撮影
マルミノヤマゴボウ 2枚
ヤマトウバナ 2枚
キジョラン 3枚
トリガタハンショウヅル 1枚
ハダカホオズキ 1枚
センブリ 1枚
マムシ 1枚 ほか6枚
和泉葛城山 2019年9月8日撮影
トラノオジソ 2枚
レモンエゴマ 2枚
ミヤコミズ 1枚
ハウチャクソウ 1枚
アケボノシュスラン 1枚
エゴマ 1枚
ツルニンジン 1枚 ほか2枚
和泉葛城山 2019年9月22日撮影
オオヒキヨモギ 3枚
ヤマカガシ 1枚
ネキトンボ 1枚
貝塚市木積 2019年9月23日撮影
ヌマダイコン 2枚 ほか3枚
貝塚市蕎原 2019年9月23日撮影
サワヒヨドリ 2枚
コケオトギリ 3枚 ほか6枚
貝塚市秋山川 (蕎原一木積)
2019年9月23日撮影
イボクサ 3枚
サンコタケ 1枚 ほか6枚
貝塚市秋山川 (蕎原一木積)
2019年9月28日撮影

覚野良子さんには、これらの他にも貝塚

市以外の画像や、同定用の画像も寄贈していただきました。

◆久保元嗣さんより

ヒキガエル 1枚

貝塚市木積 2019年7月19日撮影



ヒキガエル

貝塚市木積 2019年7月19日 久保元嗣さん撮影

◆食野俊男さんより

オオソリハシシギ 5枚

貝塚市近木川河口 2019年9月27日撮影

<目撃情報>

◆覚野良子さんより

ゴイサギ 幼鳥3羽

貝塚市小瀬 2019年7月25日

<鳴き声情報>

◆五藤武史さんより

ニイニイゼミ

高石市高師浜 2019年7月5日

ツクツクボウシ

高石市高師浜 2019年9月3日

<展示用>

◆福島秀人さんより

ゴマダラカミキリ 成虫1点

貝塚市二色 2019年7月3日採集

◆向井美智子さんより

スズバチ 巣1点

貝塚市脇浜 2019年7月25日採集

◆常道武士さんより

チョウセンカマキリ 幼虫1点

貝塚市二色 2019年7月26日採集

ハラビロカマキリ 成虫1点

阪南市鳥取 2019年9月22日採集

◆森田紳平さんより

ノコギリクワガタ・ミヤマクワガタ・オ
オクワガタ・コクワガタ・カブトムシ
など多数

2019年7月28日寄贈

◆小野田淳一さんより

コクワガタ 成虫2点 (1♂1♀)

岐阜県産 2019年8月譲受

2019年9月8日寄贈

 スタッフ日誌

7月13日～8月26日、夏休み自由研究相談として、畔の谷の化石、昆虫標本作り、メダカのやせ細り病、カブトムシの生態と飼育、沖縄の貝殻について受け付けました。(スタッフ一同)

7月20日～9月1日、当館の元館長の上久保文貴先生から寄贈していただいた6,000点を超える植物標本の中から、貝塚市にゆかりのあるものなど40点を選び出し、夏期特別展として展示しました。ご覧いただいた方々、先生との思い出を書くコーナーに寄せ書きをいただいた方々に感謝致します。(スタッフ一同)

9月18日、西小学校5年生の近木川上流現地学習に参加しました。1週間前(9/11)に学校で近木川の景観や生きものを説明し、当日、川に入りました。事前授業で紹介したカジカガエル、オイカワ、カワムツ、カワナ、ムカシトンボの幼虫などの水生昆虫のほか、体長55mmのシュレーゲルアオガエルや、仔を腹に抱えたサワガニなど、事前授業で紹介しなかったものも採集されて、スタッフ自身も勉強になりました。
(山・岩・湯)

9月19日、シロアリに根元を食われてグラグラだった自然生態園「どんぐりの森」の標柱をリニューアルしました。以前のものよりも小ぶりなので、二色の浜に漂着した浮きで作った「大ドングリ」を添えました。8月24日に奥田大介君の助けを借りて復旧した「トンボの池」の標柱ともども、少しでも気に留めていただければ幸いです。復旧の残りはバッタの原っぱにあった大看板ですが、大物すぎるので、どうするかは現在思案中です。(岩・鈴)

7月～9月にかけて博物館学芸員の資格取得を目指す大学生たちが各々1週間ずつ実習に励みました。今回、遠くは東海大学札幌キャンパスをはじめ、和歌山大学、近畿大学、大阪芸術大学からの学生たちが入れ替わり立ち代わりでにぎやかでした。来館する子供たちにとっても若い実習生たちはすぐに人気者になり、館内も活気づきました。(スタッフ一同)

お知らせ

閉館時間に関するお知らせ

11月1日から来年の3月31日まで、土・日曜日の閉館時間が午後5時になります。

五藤武史写真展「そら」sora

～ 月と雲と太陽と ～



場所：自然遊学館多目的室

期間：2019年11月1日(金)～24日(日)

火曜日休館

日頃、何気なく見ている空。天体の運行による珍しい現象、太陽や月と航空機が作り出す珍しい瞬間を撮影した五藤武史氏の作品をご覧ください。

自然遊学館だより 2019 秋号 (No. 93)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2019.11.6

この小冊子は店内印刷で作成しています。